

## 健康診断の検査項目について

Vol.4

健康診断でよく行われる検査項目について、その働き・基準範囲・疑われる疾患などを解説していきます。

## 〔肝機能検査①〕

肝臓は「沈黙の臓器」とも呼ばれ、トラブルがあっても症状があらわれにくく、知らない間に病気が進行していきます。その異常をいち早く発見するための検査です。

## AST・ALT

基準範囲：AST 10～35 IU/L  
ALT 6～35 IU/L

肝細胞中の体のたんぱく質を構成するアミノ酸をつくる酵素。肝細胞が壊れると血液中にもれ出で高値となるためそれぞれの数値から肝障害の程度を知ることができます。

高値…肝炎・肝硬変・肝がん・黄疸など  
(ASTのみ高値…心筋梗塞・筋ジストロフィーなど)

## γ-グルタミルトランスペプチダーゼ (γ-GT)

基準範囲：6～55 IU/L

たんぱく質を分解する酵素。主に肝障害や胆汁の流れが悪くなると血液中で上昇する。

高値…肝炎・肝硬変・肝がんなど  
(γ-GTのみ高値…アルコール性肝障害)

## 乳酸脱水素酵素 (LD)

基準範囲：115～245 IU/L

ブドウ糖がエネルギーに変わるとときに働く酵素。臓器や細胞がダメージを受けると血液中に流れ高値となる。

高値…様々な臓器のがん  
(一時的な高値…妊娠・運動など)

藤枝健診センター 健診検査課主任 高田雅紀

## ハンセン病療養所入所者里帰り事業に参加して

平成28年10月11日から13日の三日間、ハンセン病<sup>\*1</sup>療養所入所者里帰り事業<sup>\*2</sup>に参加させて頂いた。私が同行させて頂いた方は、静岡県出身だが、ハンセン病に罹患した後に幼少期に地元を離れ、現在はとある県の療養所に入所されている方だった。その印象は、最初から最後まで、「ごくごく普通のおばあさん」だった。車椅子を使っておられたが、同年代の私の祖父母より気持ちの面で余程お元気で、とても気さくにお話を下さった。ハンセン病に対して机上の知識しかもたず、参加前には漠然とした不安を抱いていたが、随分と気が楽になったことを覚えている。

伊豆方面の観光地を何箇所かめぐったが、車椅子の方だとここが大変だとか、こうだったら良いなと思うことが何回かあった。黄金崎クリスタルパークでは、展示物間の幅がとても広くとられていて、車椅子でも移動がしやすく、ゆっくりと回ることができた。昼食をとった場所の隣には、堂ヶ島遊覧船乗り場があり、車椅子対応トイレが整備されていたため、入所者の方はほっとされていた様子だった。今回、車椅子専用の乗降機（車椅子に乗ったまま自動車に乗降できる）が設置されているジャンボタクシーを利用した。運転手の方に伺ったところ、認知度が低いのか、利用率はまだそれほど高くないとのことだった。車椅子だと、特にこのような観光地に来ることは気後れしてしまうと思うが、ジャンボタクシーのような移動手段があり、かつ、移動先で車椅子でも安心して利用できるような施設があれば、集客につながり、利用者の方ご自身も楽しめるのではないかと感じた。

お話させて頂いた中で、入所者の方は、「皆が自分に普通に接してくれることが一番嬉しい」とおっしゃっていた。私では想像もつかないような辛い目に遭ってきたと思うのだが、そのように謙虚におっしゃっていたことに、切ないような、悲しいような、なんとも表現し難い感情を抱いた。偏見や差別感情を持ったり、持たれたりして接することは、お互いにとってかなりのストレスだと思う。ましてや、それが誤った知識による理不尽なものだとしたら尚更のことである。誰に対しても偏見なく平等に、普通に接することは難しいのかもしれないが、誰もが誰に対しても普通に接することができる社会というのは、とても素晴らしいものではないだろうか。今回の事業で私が得た教訓は、まずは、色々なことを知らなければならない、ということだった。日常に倦むことなく、人との新しい出会いや知識を貪欲に求めていくよう

と思う。

藤枝健診センター 佐藤恵里子

## \* 1 ハンセン病

ハンセン病は弱い細菌による感染症であるが、細菌は極めて感染力が弱く、感染したとしても発症することはごくまれである。また、仮に発症しても、現在では化学療法等の進歩により早期治療によって後遺症なく治癒することができる。

## \* 2 ハンセン病療養所入所者里帰り事業

現在、全国14か所中7か所のハンセン病療養所に、30人の本県入所者が暮らしており、全ての入所者のハンセン病はすでに治癒している。しかしながら、これらの入所者は、有効な治療薬がなかった乳幼児期に感染し発症したため、目や指先などに障害が残り、物がうまく持てない等の症状が見られる。

また、平均年齢も80歳を超え、社会にいまだに偏見・差別が残っていることや、それに伴い親類に迷惑をかけるのではないかとの心配があったり、親類と縁を切られて頼るべき人がいなかつたりしていて、療養所の外で暮らすことが難しい状況になっている。

ハンセン病療養所入所者等は永年に亘って苦労を強いられており、平成になってから制定された法律で、国はハンセン病療養所入所者の福祉の増進に努めなければならないこととされている。県とともに、静岡県出身の入所者に故郷である本県に里帰りしてもらうこと等によって、入所者の福利厚生を図るとともに、併せてハンセン病に対する県民の理解を深めることとしている。

学の大切さを改めて教育するためにも、予防医学が大きな役割を担うということがよくありました。次世

## 予防医学協会総合健診センター

## ヘルスポートだより

## 結果説明をお待ちの間に

ヘルスポートでは人間ドックを受けた方へ、午前中に受けた検査について午後の時間に医師より結果説明を行っています。その日のうちに結果が出ない検査も一部あります、基本的な人間ドックの検査項目である血液やレントゲン、エコー検査などの結果は当日中にお聞きいただけます。当日の結果説明はたいへん好評なため、日によって希望の方が多い場合は順番をお待ちいただく時間が長くなってしまうこともあります。ヘルスポートではその時間をなるべく有意義に過ごしていただけるよう、アクティビティをいくつかご用意していますのでご紹介します。

カフェテリアでは無料の自動販売機の設置、お菓子のサービスを行っています。セルフサービスでご自由にご利用ください。リラクゼーションルームではおひとりでもお連れ様とでも楽しめるクロスワードパズル、塗り絵、肌年齢・脳年齢測定機をご用意しています。もちろん午前中の検査でお疲れの方にはマッサージチェアやリクライニングチェアを設置したおくつろぎいただけるスペースもありますので、漫画やさまざまなジャンルの雑誌・週刊誌などを読みながら、ゆったりとお休みください。また女性限定ではありますが、毎週金曜日はプロのスタッフによるハンドマッサージのサービスも行っております。

いつもは仕事や家事で忙しくゆっくりする時間がなかなか取れないという方も、ぜひ気分をリフレッシュする時間としてお役立てください。



今春より2階の屋上テラスへ屋根を新しく設置します。天気の良い日は開放的な屋上テラスでお食事やお話を楽しみいただければと思います。

## 第46回学校保健セミナーを開催



当協会と静岡県学校保健会が共催する第46回学校保健セミナーを、平成28年12月22日に、静岡県男女共同参画センター「あざれあ」にて開催した。講師には、日本体育大学体育学部教授の野井真吾先生をお迎えした。「ちょっと気になる子どものからだと心へ元気のためにできること～」と題された講演に、県内全域から参加された70名の方が、熱心に耳を傾けておられた。

子どもに関するデータの年次推移を参照すると、学校で行われる定期健康診断で発見される有所見率は減少傾向、新体力テストの合計点は上昇傾向が見られ、数値的に見ると、何ら問題はないようと思われる。しかし、保育・教育現場の先生方や、子育て中の親御さんからは、「最近の子どもは元気がないように見えて気になる」というような声が聞かれるがそれは何故か、どのように対応すれば良いのか、という講演内容であった。

まず、鎮静化作用（体温を下げて眠りを誘導する働き）等がある「メラトニン」が夜にきちんと分泌されると熟睡できるが、それには日中に合計四時間は受光があること、夜に強い光を浴びるとメラトニンの分泌を阻害してしまうことを紹介された。また、授業中に座っていられず、落ち着きのない「不活発（そわそわ）型」と呼ばれる子に対しては、外で思い切り駆け回るなど、夢中になれる取り組みを仕掛けることで、興奮が育ち、それは抑制を育てることになり、次第に減少する傾向にあることを、実際にそのような取り組みをされている保育・教育現場の写真や映像等を用いて説明して下さった。

様々なグラフや事例を用いて、とてもわかりやすい講演をして頂き、質疑応答も例年以上に活発に行われた。教育現場の指導者としてだけではなく、一人の親として、人間としても役立てられることが多々あったように感じた。



二日目は、全体の公聴会でした。いろいろな講演がありましたが、一番印象に残ったのは、神奈川県支部の六十年のあゆみでした。世の中の変化にあわせて様々に事業形態が変わっています。仕事が社会と絡み、貢献していく様子がわかりました。ちなみに一部例をあげますと、「戦後復興時の食糧難を解決するのに人糞尿をつかつたのだが、その人糞尿を介して寄生虫がひろまつた。この寄生虫をなくすための事業（便潜血検査）」「交通事故増にともない血検査（便潜血検査）」「寄生虫の便液検査の増加」などがありました。最後に、今回の統計研修会では、国民一人ひとりが死ぬまで元気を保つことが大事である（現在の日本のためにも）、政府が大きな役割を担うということがよく言されました。次世

一日目には、システムや職域等のグループに分かれ、私が参加した部門では、情報システム担当者の情報交換のグループディスカッションが行われました。時折事例発表を挟みながら、多数の質問に対する回答の補足説明と、更なる質疑応答が行われ、活発な議論が行われました。私は、普段システム担当ではないので、システムの話についていけるか不安もありましたが、他支部でも普段システム担当ではない方がいらっしゃった事もあり、なんとか私もついていけたかと思います。かつ今回の議題の大きなテーマの一つが、システム変更についてでした。私は、システム変更についていたため、現在シス

**全国情報統計研修会に参加して**

藤枝健診センター情報管理課主任 五十嵐俊樹

公益財團法人予防医学事業中央会と神奈川県支部共催の第三十四回全国情報統計研修会が八月に、北は岩手県、南は沖縄県までの支部が参加して行われました。主に情報処理専任担当者が参加していましたが、営業担当者、検査課の方等、多彩な顔